



|            |   |
|------------|---|
| Title      | 米国管理下の南西諸島状況雑件 会談録（日・琉球首脳、政府高官）（45・7・30三木前外相・屋良主席   外務省外交史料館レファレンス番号：H221333）                   |
| Author(s)  | -   |
| Citation   | 平成22年度外交記録公開(3)No.1   公開日：平成22年12月22日   外務省外交史料館管理番号：A'3.0.0.7-1(5)   CD・DVD番号：H22-009          |
| Issue Date |   |
| URL        | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43191">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43191</a> |
| Rights     | 外務省外交史料館所蔵資料  |

46  
7  
30

三木前外相、屋良主席

ソカヒ  
万大博販  
大政事外外儀官  
事務次長  
典房  
巨官官審審長長  
秘給入電厚計  
備文會管給  
国資長  
参調析企  
價移長  
参領旅移

ア参地中東  
長北西  
参北北保  
中南  
参一二  
参西東洋  
長西東

近ア長  
参書近ア  
経次総経国万  
長経協長  
参領統  
参政技二  
国一理  
参条議規  
長国  
参政経科  
長情長文長  
参道内外

注意  
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

278

総番号(TA) 37606  
70年7月31日10時59分 沖繩 猪着  
70年7月31日15時01分 本省 猪着  
外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理  
三木・ヤラ会談

第233号 略  
貴電米北/第/37号に関し  
30日、三木前外務大臣一行とヤラ主席の会談の際主席の  
ちん情した要旨次の通り。(当方ヨシオカ公使同席)  
1. おきなわ住民は戦争の直接の犠牲者となり戦後は戦  
後処理の一かんとしてけん民のふくしよりも基地ゆう先の  
政策の犠牲となつた。今後アアジアのため、国のためと  
いうことでけん民がいつも「手段」に供され、その「フク  
シ」が第2義的にされるのではないかというけ念があるこ  
とを先づそつ直に申し上げたい。従つて、かかる不遇にた  
えぬいてきたけん民に対 して今後はそのふく  
しを如何に増進するかということにしよう点を当てて復帰  
準備を進めていただきたい。こうすることが、25年間そ  
国復帰を念願とし、心の支えとしてたえて来たけん民に本  
当の復帰のよろこびを与える所以と思う。  
2. 復帰はしゆく願であるが、同時に不安慮がある点をし  
ん身に受止めて欲しい。不安慮の第1は今後の基地の態様

外務省

添付

秘

注意  
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

がどうなるかということである。(核、どくガス、B-5  
2等の問題)、第2は社会経済面に及ぼす不安(米価、  
税法、開発計画、社会保障等)これらについては特例措置  
及び暫定措置を講ぜられる際、あたたかい御配慮が願わし  
い。  
3. その他の要望としては民間資産の「買取」には割り切  
れない感情があり、また土地の復元補償、占領中の人身事  
故の補償の未解決なものについて、けん民の納得のいく措  
置をぜひお願いしたい。  
(3)  
-2-

外務省